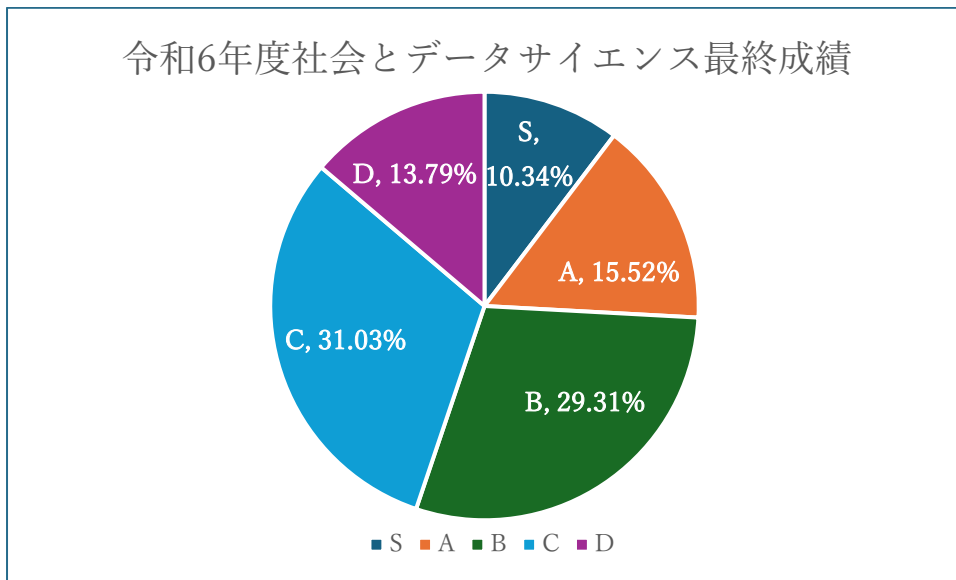


函館大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの点検、評価、改善計画について

本プログラムを構成する必修科目である「社会とデータサイエンス」について、事前事後アンケートを実施し、その教育効果について検証を行った。令和 6 年度当該科目の最終成績は以下のとおりである。

※前期科目「情報リテラシー」については準備が間に合わなかったことから、同様のアンケートを今年度は実施できていない。



本講義の成績評価は、講義後テストとレポートによって行った。評価値は、第 1 回から第 9 回までの講義後テストの合計点 (a) と、第 10 回から第 15 回までの講義で課された 6 回分のレポートの平均点 (b) を加算し、その値を 10 で割ったものである。D 評価となった学生の多くは、講義後テストまたはレポートのいずれか、あるいは両方を提出しなかった。講義後テストを一度でも提出しなかった場合、評価に大きく影響することは、第 1 回目の講義中、学生 Web システム、Teams を通じて連絡した。

学生アンケート等を通じた学生の理解度について

受講完了者 58 名（履修者総数は 64 名）中、42 名が Forms によるアンケートに回答（回答率 72.4%）した。

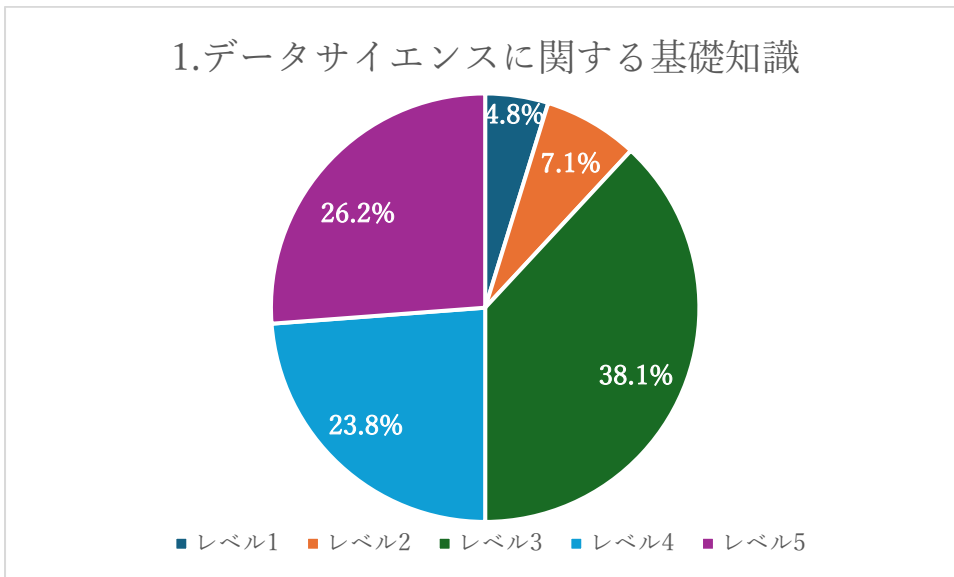
◆函館大学数理・データサイエンス・AI教育プログラムの修了者について

プログラムの修了要件である必修2科目（情報リテラシー、社会とデータサイエンス）4単位を修得できたのは、1年次生64名中、48名（75.0%）であった。

◆函館大学数理・データサイエンス・AI教育プログラムの点検、評価について

1.データサイエンスに関する基礎知識が身についたか。（1=全くない、5=とてもある）

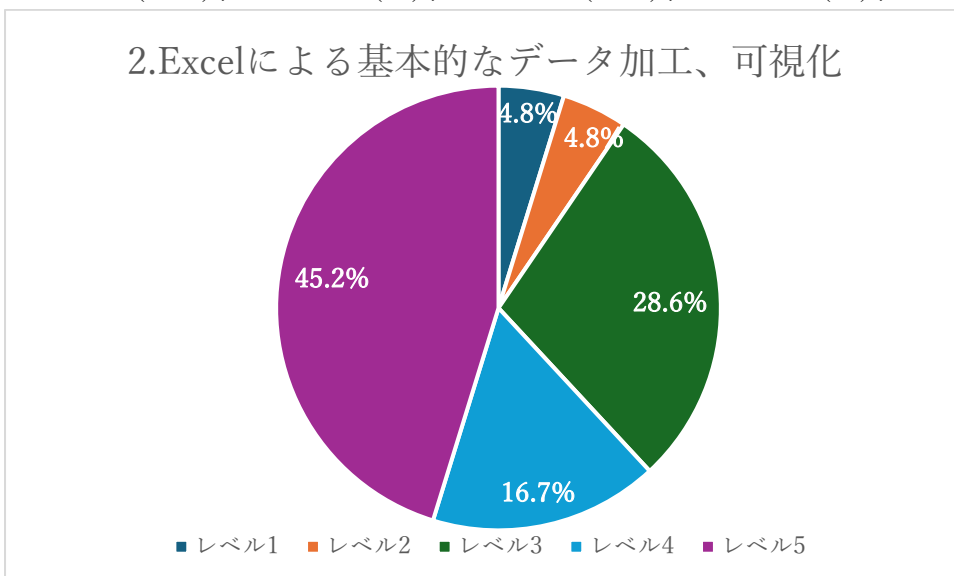
レベル5（11）、レベル4（10）、レベル3（16）、レベル2（3）、レベル1（2）



2.エクセルによる基本的なデータの加工、可視化（表やグラフ化）ができるようになったか。

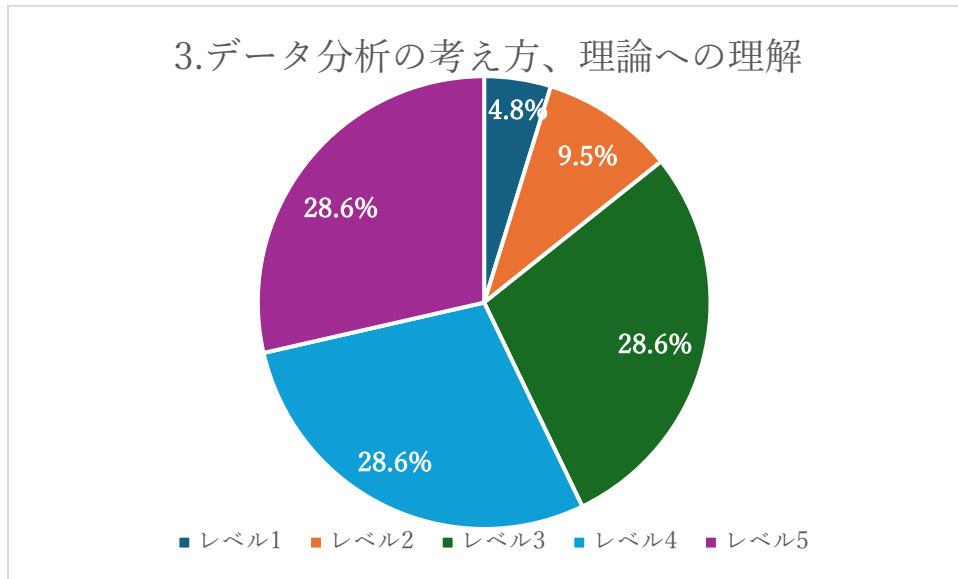
（1=全くない、5=とてもある）

レベル5（19）、レベル4（7）、レベル3（12）、レベル2（2）、レベル1（2）



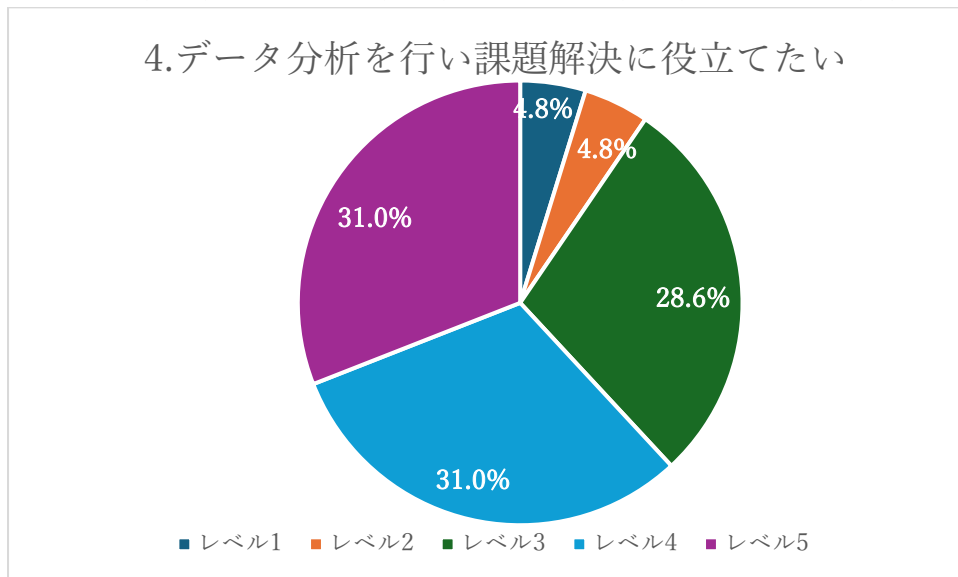
3.データ分析の考え方や論理が理解できるようになったか。(1=全くない、5=とてもある)

レベル5 (12)、レベル4 (12)、レベル3 (12)、レベル2 (4)、レベル1 (2)



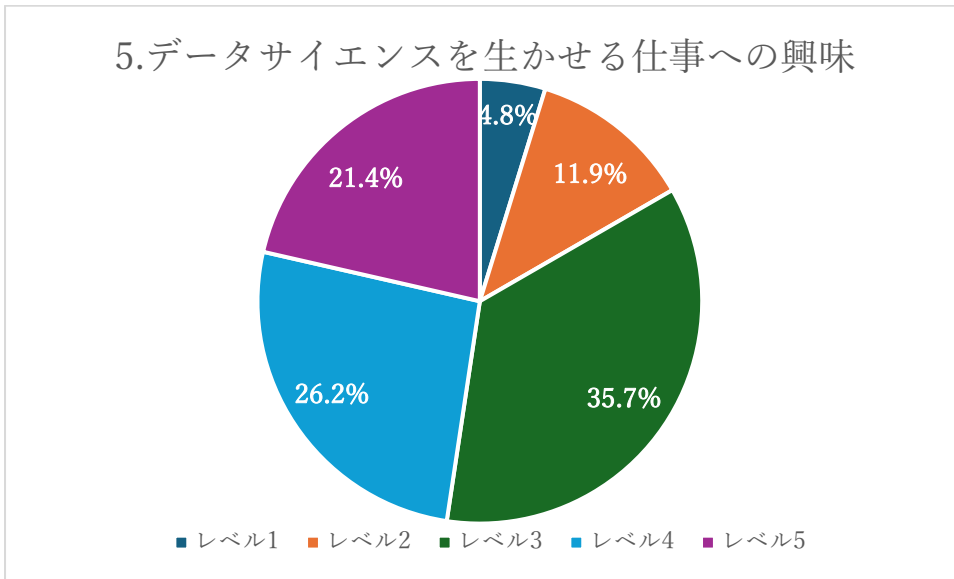
4.実際にデータ分析を行い、課題解決に役立ててみたいと思ったか。(1=全くない、5=とてもある)

レベル5 (13)、レベル4 (13)、レベル3 (12)、レベル2 (2)、レベル1 (2)



5. データサイエンスを活かせる仕事に興味を持ったか。(1=全くない、5=とてもある)

レベル 5 (9)、レベル 4 (11)、レベル 3 (15)、レベル 2 (5)、レベル 1 (2)



◆プログラムの検証結果と次年度以降の改善計画について

1 から 5 までのすべての質問に関して、レベル 3 以上の回答が 87.62% を占めた。また、講義ごとに学習内容について事前と事後に 10 点満点の小テストを実施した結果、平均 50.92% の点数の増加がみられたことから、ある程度の学修成果が得られたと考えられる。既に述べたように、D 評価となった学生の多くは講義後テストまたはレポートのいずれか、あるいは両方を提出しなかった。講義後テストを一度でも提出しなかった場合、評価に大きく影響することは、第 1 回目の講義中、学生 Web システムや Teams を通じて連絡したが、十分に理解されなかったと思われる。次年度は、より強調して説明し、改善を試みる。本プログラムは令和 6 年度から開講され受講者が今年度入学生のみであることから、2 年次以降に履修する数理系科目の成績も調査し、過年度生との比較分析を実施したい。また、次年度以降も同様の調査を継続していくこととしたい。

なお、今回の検証結果等については認定制度申請時（申請締め切り 2025 年 5 月 13 日）までに HP にて公表するものとする。